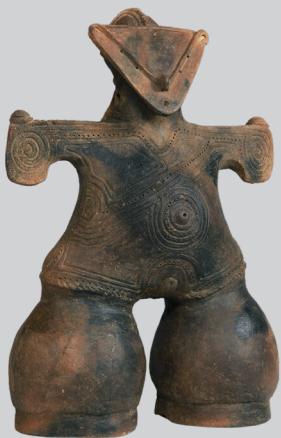


国宝「土偶」(縄文のビーナス)

縄文時代中期(約5,000年前)
棚畑遺跡出土 高さ27cm、重さ2.1kg
昭和61年(1986年)出土、平成7年(1995年)国宝指定

集落中央の穴から、ほぼ完全な形で出土しました。粘土には金色に輝く雲母が混ざっていて、ハート形の顔と、逆ハート形のお尻が特徴的です。妊娠した女性の姿を表現しており、安産祈願や子孫繁栄を願うマツリに使われたと考えられています。縄文時代の土偶の中では日本で最初に国宝に指定されました。



国宝「土偶」(仮面の女神)

縄文時代後期(約4,000年前)
中ッ原遺跡出土 高さ34cm、重さ2.7kg
平成12年(2000年)出土、平成26年(2014年)国宝指定

逆三角形の仮面をつけ、神に代わってマツリをする女性を表現したと考えられています。中が空洞のつくりで、表面はよく磨かれています。右足が壊れて出土し、縄文人が意図的に壊したものと考えられています。また、墓と考えられる穴から出土した数少ない土偶のひとつです。



ちのし 茅野市 とがりいしじょうもんこうこかん 尖石縄文考古館

TOGARIISHI MUSEUM OF
JOMON ARCHAEOLOGY

○特別史跡 尖石遺跡

八ヶ岳西山麓の標高1,070mの台地にある縄文時代中期の遺跡です。宮坂英弑氏により昭和5年(1930年)から発掘調査が行われ、多くの住居址や土器が発掘されました。尖石遺跡は、宮坂の研究の結果、縄文集落の全容が明らかになったことで学術上の価値が高く、昭和27年(1952年)に特別史跡に指定されました。



ふさかず
宮坂英弑氏
(1887 ~ 1975)

小学校の教員をつとめながら考古学の研究を行いました。晩年には尖石考古館の初代館長、長野県考古学会の初代会長をつとめ、考古学の普及に尽くしました。

○「信州の特色ある縄文土器」

縄文時代中期

縄文時代中期に八ヶ岳山麓の縄文文化は繁栄のピークに達しました。遺跡の数の多さに加えて、器としての機能美を気にしないかのような立体装飾が発達した土器もその繁栄を雄弁に語るもので、長野県宝「信州の特色ある縄文土器」に指定されています。展示室Cを中心に展示しています。



○与助尾根遺跡の復元住居



宮坂英弑氏により、縄文時代中期の住居址28箇所が発掘されました。

現在、同じ時期に存在した可能性のある複数の縦穴住居を復元しています。

○アクセス



経路詳細

お車の場合：中央自動車道 諏訪 IC から約 25 分、諏訪南 IC から約 35 分
 公共交通機関の場合：JR 茅野駅から約 20 分、茅野駅よりアルピコ交通バス
 (メルヘン街道バス) 乗車、尖石縄文考古館前下車すぐ
 「のらざあ」という乗り合いバスもございます。
 詳しくは、受付までお問い合わせください。

○スタンプ

○館内案内



展示室 A.B.C

国宝「土偶」をはじめ、テーマ別に3つの展示室があります。土器の文様つけ等の体験展示もあります。



体験コーナー

粘土を使った体験学習 (有料)、縄文に関係した書籍の閲覧ができます。



ショップ・喫茶

レプリカをはじめ国宝「土偶」に関連した商品が購入できます。喫茶もあります。

ホームページの
QR コードはこちら



観覧料 (団体料金 20 名以上)

大人 500 円 (400 円)、高校生 300 円 (200 円)、
小中学生 200 円 (150 円)

休館日

毎週月曜日 (休日の場合を除く)、年末年始、
休日の翌日 (この日が休日、土・日曜日の場合を除く)

開館時間

9 時～ 16 時 30 分 (観覧は 17 時まで)

住所

〒391-0213 長野県茅野市豊平 4734-132

連絡先

TEL: 0266-76-2270 FAX: 0266-76-2700

アドレス

togariishi.m@city.chino.lg.jp